

西濃農林事務所の普及活動状況（令和7年6月）

今月の重点活動

■小麦 麦作共励会県審査の実施

5月30日、海津市内において、令和7年度岐阜県麦作共励会圃場審査が実施された。西濃地区からは(農)平田ファームが推薦され、小麦「イワイノダイチ」、「さとのそら」の作付圃場にて審査が行われた。

今年度は県内で3経営体の推薦があり、審査委員による厳正な審査が行われた。(農)平田ファームでは基本技術を徹底した栽培がおこなわれており、審査員の評価も良好であった。

農林事務所は、今後も審査に必要な情報を整理して調書を作成するなどの支援を行う。



【圃場審査の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■田植え体験 墨俣小学校の田植え体験支援

6月13日、墨俣町下宿地区農地保全向上管理組合による墨俣小学校5年生の田植え体験が行われ、大垣市・JAにしみの・農林事務所による支援を行った。

田植え機による田植えのデモンストレーションが行われた後、生徒が水田に入り手植えによる田植え体験を行った。その後、ハツシモのおにぎりの試食や稲作についての質疑があり、管理組合や関係機関で応答を行った。

農林事務所では、今後も食農教育などについて支援していく。



【田植え体験の様子】

■冬春トマト 岐阜県就農支援センター研修生 先輩農家を訪問

6月9日及び11日、就農支援センター第12期生が研修の一環で、就農支援センター卒業生の先輩農家を訪問した。農林事務所は、就農支援センターと連携し、日程調整や訪問農家の選定にあたった。

当日は、先輩農家から栽培技術についての指導や、研修時にすべきことなどが説明された。研修生は先輩農家の話を熱心に聞き、積極的に質問するなど、就農に向けて具体的なイメージを持つことができ、有意義な研修となった。

農林事務所では、就農支援センターと連携し、冬春トマト産地を支える担い手の育成を支援する。



【訪問の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■小麦 種子生産ほ場の収穫作業が終了

6月6～7日、海津市2法人の小麦種子生産ほ場（品種：さとのそら）において、収穫作業が行われた。

今年の成熟期は昨年より遅くなったが、倒伏や雑草は少なく、収穫作業は順調に行われた。一般種子はJAにしみの輪之内CE、原種はJAめぐみの美濃種子センターで乾燥し、その後、美濃種子センターで精選が行われる予定である。

農林事務所では、収穫された種子の生産物審査（発芽率調査）を実施し、優良種子の確保に向けた支援を行っていく。



【収穫された小麦種子】

■海津甘長部会 甘長ピーマンの目揃え会開催

6月5日、J Aにしみの海津中支店において、海津甘長部会の目揃え会が開催され、部会員及び市場関係者等26人が参加した。

今年の甘長ピーマンは4月9日から出荷が始まっているが、5月下旬以降からようやく出荷者数、出荷量とも増え始めた。

目揃え会では、まずJ A全農及び岐阜市場から甘長ピーマンの情勢報告があった。続いてJ Aから共選規格の説明があり、特に下級品の基準について検討が行われた。農林事務所からは甘長ピーマンの特性や気象経過、今後の栽培管理のポイントについて情報提供を行った。

農林事務所では、今後もほ場巡回による生育や病害虫の状況確認、栽培指導など、安定生産に向けて支援を行っていく。



【目揃え会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■えだまめ 現地栽培研究会の開催

5月23日、J Aにしみの牧集出荷場で、牧園芸組合えだまめ部会の現地栽培研究会が開催された。

えだまめ部会員8名と、J A、全農岐阜、種苗会社、農林事務所により、現地で5カ所のほ場を巡回した。害虫が例年より多いとの声が多く、フタスジヒメハムシやマルカメムシが多く確認された。

農林事務所からは、気象情報、病害虫対策、施肥の説明を行った。6月上旬から出荷が予定されているため、J Aから出荷時の注意点の説明があった。

農林事務所は、今後も病害虫、高温対策について支援を行う。



【現地研究会の様子】

■きゅうり 海津胡瓜部会栽培反省会の開催

6月17日、J Aにしみの海津中支店において、海津胡瓜部会半促成・促成栽培反省会が開催された。農林事務所は、令和7年産の気象経過、栽培アンケートの結果、高温対策の実証成果について説明を行った。

令和7年産では、アザミウマ類やコナジラミ類の発生は少なかったが、一部のハウスでは5月以降増加し、タバココナジラミが媒介する退緑黄化病の発生もみられたため、次作に向けて、害虫をハウス外に出さないための蒸込みや侵入対策の徹底、天敵の利用を助言した。

また、高温対策として、定植前後の塗布剤の活用の推進とともに、GAPの一環として作業者の健康を守る観点から、熱中症対策について注意喚起を行った。



【反省会の様子】

■いちじく ほ場巡回の実施

6月13日、海津いちじく部会は、会員間の技術交流に加え、今年度の出荷量予測を目的として、部会員5名全員でほ場巡回を実施した。

生育は病害虫もなく良好であったが、湿害に弱い樹種であることから、高畝栽培であっても、水田より畑の方が生育が優れる傾向がみられた。

農林事務所からは、今後の管理について情報提供を行った。会員数が減少していることから、今後は会員数増加に向け支援を行っていく。



【ほ場巡回の様子】